「校長室だより」に感嘆！

当ＨＰ記載の「子どもの主体的学習」の養護学校長室の戸棚から漁ってきた「校長室だより」をようやく目を通した。せっかちのこの私が２，３日かかって全部を読み終えたことから想像出来るように膨大な量であり、また、ＨＰ、メール等でかなり自分の想いを発信していると思う私の読後感想の一発目は、質、量共に「参った！」である。

副校長（大学付属なので、実質の校長）が、Ａ４判一枚に、時折したため配布しているものである。いわゆる管理職としての上意下達の内容ではない。正に、教育者としての教育活動に関するものばかりである。

管理職の雑多な忙しい業務の中で、よくもこう頻回（その日付から、時には連日のものもあった）に発信してるものと感嘆のみ。時に理論を優しくかみ砕き事例を対照しての解説シリーズ、時に在校生との係わり合いからのもの、時に随筆的なもの、等々。

いずれの「たより」の中に流れているのは、教育活動とは何か、係わり合うとは何か、係わり手として思考・検証するとは何かを、具体的な子どもの行動と絡めて追い求め、思考し続けている教育者そのものの姿勢である。

この学校の先生方が、素晴らしい教育活動に取り組んでいるのは、この「たより」を読んで当然とさえ思えた。　共に真の教育活動を日々追い求め、共に歩んでくれている先輩（上司）に出会った先生方は、正に家宝ものである。それだけに、先生方個々がこの機会に、どこに行っても今の教育活動に取り組む姿勢を続けられる真の教育者としてのエネルギーを身につけて欲しいと願っている。

（2003 年 02 月 11 日　記）